

MIRAI

[人と防災未来センターニュース]

[人と防災未来センターニュース]

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター



Vol.

23

Contents

防災未来館リニューアルオープン	1
平成19年度災害対策専門研修	4
研究員紹介	5
ひと未来館企画展・展示会	6
防災Q&A、震災資料紹介	7
企画展のご案内	8

防災未来館がリニューアルオープン

阪神・淡路大震災から13年を迎えるにあたり、映像や展示に開館以降の時間経過に伴う復興過程を捉えた情報を追記するとともに、来館者にわかりやすく伝える機能を充実させ、平成20年1月9日にリニューアルオープンしました。

オープンに先立ち1月8日にオープニング記念式典が行われました。式典には約100人が出席し、井戸敏三知事が「阪神・淡路大震災から13年近く経過し、震災の経験や教訓が風化しつつあるのではないかとの懸念がある。リニューアルで発信力を高めていくことを期待したい。」とあいさつ。ご来賓の田口尚文内閣府大臣官房審議官、山口信行兵庫県議会議長ら関係者とともに、テープカットでリニューアルオープンを祝いました。(写真上)



また、阪神高速道路株式会社から譲り受けた、震災で壊れた橋脚基部の除幕を木下博夫同社代表取締役社長ほか関係者で行い、お披露目をしました。

(写真左)

(写真右)

阪神高速道路の損傷橋脚の折れ曲がった内部の鉄筋に触れる井戸知事



今回のリニューアルでは、①時間経過に伴う復興への新たな課題と情報の追記、②誰にでもわかりやすく伝える展示機能の充実、③これから起こりうる災害の軽減に向けて、体験学習機能の充実、④研究員、ボランティア等センターの機能を活用、⑤資料室を移転し快適空間として充実、の5つのポイントを柱にして実施しました。

各フロアにおける主なリニューアル内容

1階 エントランスフロア

★センター長（映像）によるガイダンスの新設

4階の映像を見る前にセンターの設立趣旨や展示のねらいなど、事前にガイダンスを行い、来館者の理解を促進するようにしました。

4階 大震災を学ぶ 震災追体験フロア

★1.17シアター前室を「震災以前のまち」に改修

1.17シアターを体感する前に、誰も被災することなど想像もしていなかった震災前夜の神戸のまちにタイムスリップさせる新たな演出空間を切り絵を使って創出しています。（写真右）



★大震災ホール「このまちと生きる」の映像の更新

少女を通じて震災5年程度までの過程を描いた前作「このまちと生きる」に加えて、被災者の視点による被災直後から現在の復興状況に至る経過等を紹介する映像を上映しています。

3階 被災地の実態を学ぶ 震災の記憶フロア

★復旧・復興の流れがわかる概観展示「復興への道」の新設

震災直後から10年後までの人の暮らしやまちなみの復興過程を5場面のジオラマで表現し、ボランティアによる解説、グラフィックや体験談を加えて被災地の実態をわかりやすく展示しています。（写真右）



★膨大な展示資料をわかりやすく伝える工夫

3階展示の導入部に「被災の状況」（映像）を設置し、震災の概要を視覚的に訴えるとともに、ポイントとなるスポット展示の新設や新たに4か国語対応のハンディガイド端末を導入し、文字と音声の再生により震災資料を解説しています。

また、時間制約のある方にも展示の概観がわかるように短時間コースを設定しました。

2階 防災・減災を学ぶ 防災・減災体験フロア

★参加体験して学ぶ「防災・減災ワークショップ」を改修

新たに実験ステージを設置し、既存の液状化、耐震の実験装置に家具転倒防止、木造耐震木組などの実験装置を加え、ボランティアによる実演解説をおこなうとともに、子どもたちが楽しく学べるゲームを導入し、自らが防災・減災を考え、学ぶワークショップを充実しました。（写真右）



5階 快適な資料閲覧スペース 防災学習フロア（資料室）

★資料室を2階から5階に移転

資料室では、阪神・淡路大震災当時の被害状況や人々の生活を伝える映像・写真資料、また地震を体験した子どもたちの声、被災した学校の様子を記録した文集など、震災体験を今に伝える資料を所蔵し、自由に閲覧していただけるよう開架しています。

資料室に所蔵している震災・防災関連資料(一次資料・二次資料)は、ホームページでも検索していただけます。

<http://lib.dri.ne.jp/search/index.asp>

5階の資料室からは六甲の山なみが一望でき、また、資料室奥にある「滴水の庭」を解放しています。

資料室は無料でご利用いただけますので、是非お運び下さい。



屋外 大型実物資料の展示

★阪神高速道路の損傷橋脚の基部を新設展示

震災メモリアルとして阪神高速道路神戸線の壊れた橋脚の基部を阪神高速道路株式会社から譲り受け、防災未来館南側に設置し、折れ曲がった内部の鉄筋を見せることで地震の破壊力の凄さを訴えます。



震災から13年が経過し、震災の風化が懸念されるなか、防災未来館は新たに展示内容を充実し、生まれ変わりました。

震災列島日本。今後起こるであろう災害に備えるため、是非この機会に皆様のお越しをお待ちしております。

平成19年度災害対策専門研修の概要及び実施結果

人と防災未来センターでは、災害対策の実務の中核を担う人材育成の一環として、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」を平成14年度から実施しています。これまで延べ1,600人以上の方に受講いただき、研修への信頼性も増しています。

今回は、その中からトップフォーラム、マネジメントコース及び図上訓練・広報コースについて、その概要及び実施結果をご紹介します。

(1) トップフォーラム

「トップフォーラム」は、自治体の首長などを対象に、今後発生する災害に対し、トップに求められる対応能力を向上させることを目的としています。

平成18年度より都道府県自治体のご協力をいただき、全国各地での開催を目指しています。

今年度は第1回目を鳥取県、第2回目を秋田県と共に実施しました。

	開催県	日 程	参加人数
第1回	鳥取県	平成19年5月24日(木)	39名
第2回	秋田県	平成19年7月23日(月)	19名



(2) マネジメントコース

「マネジメントコース」は、災害対策実務の中核を担う人材の育成を目標とし、地方自治体職員などを対象として、能力に応じたコース設定をし、春・秋の年2回実施し、近畿圏を中心に北は北海道から南は鹿児島まで全国各地からの参加がありました。

① 春 期

コース名	日 程	参加人数
ベーシック	平成19年5月28日(月)～6月1日(金)	40名
エキスパートA	平成19年6月4日(月)～6月8日(金)	20名
エキスパートB	平成19年6月11日(月)～6月15日(金)	19名
合計(延べ)		79名

② 秋 期

コース名	日 程	参加人数
ベーシック	平成19年10月15日(月)～10月19日(金)	39名
エキスパートA	平成19年10月29日(月)～11月2日(金)	20名
エキスパートB	平成19年11月5日(月)～11月9日(金)	19名
アドバンスト	平成19年11月12日(月)～11月13日(火)	4名
合計(延べ)		82名

(3) 図上訓練・広報コース



「図上訓練・広報コース」は、地方自治体の災害対策本部事務局運営に携わる職員が、災害対応時に広報活動を含めた適切な運営ができるることを目的として実施し、近畿圏を中心に、北は北海道から南は熊本まで全国各地からの参加がありました。

日 程	参加人数
平成19年8月6日(月)～8月8日(水)	40名

当センターとしましては、7年目を迎える平成20年度も、研修内容をより一層効果の高いものとするため、これまでの受講者のニーズ、反省点、社会的な要請等を十分に踏まえた上で、カリキュラムの検討をしていくところです。

人と防災未来センター 研究員紹介



研究員 紅 谷 昇 平

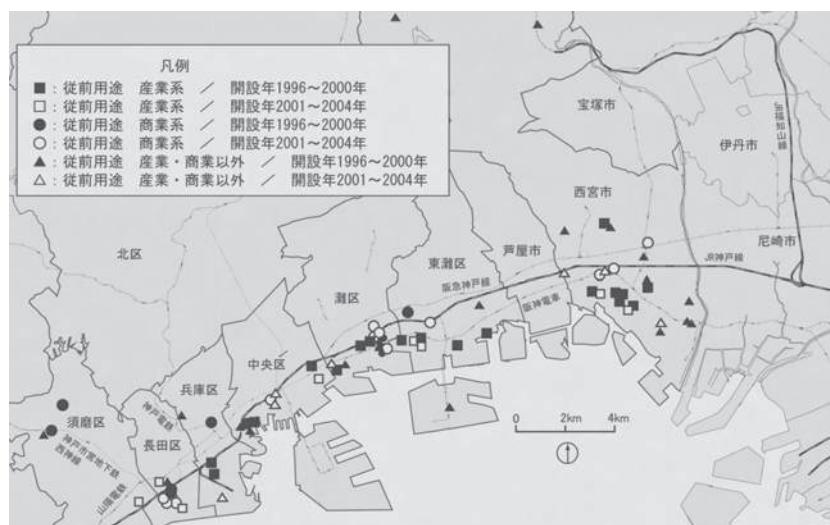
博士(工学)、一級建築士

皆さま、はじめまして。2007年4月より人と防災未来センターの研究員として着任いたしました。主に経済復興や復興まちづくり、企業・自治体のBCP(事業継続計画)などの分野を担当しております。

地震・防災との付き合いは、都市計画を学んでいた大学院修士課程時代に阪神・淡路大震災が発生し、火災や避難所、住宅被害、復興まちづくりなどの実態調査に関わったことに始まります。その後、民間シンクタンクに就職し、自治体からの受託調査・研究に携わりながら、社会人大学院生として復興まちづくりや地域産業復興等の研究を続けてきました。

都市の復興を考える際には、目に見える建物や道路など空間の復興に目が向かいがちですが、現実には器が出来ても中身(機能)が埋まらない状況が続いている。住む、遊ぶ、働くなどの都市の機能をまず回復させ、結果として空間の再建を誘導する計画理論が求められています。その第一歩として、地域の商業や製造業の復興プロセスや求められる条件、支援策等を明らかにする研究を進めています。例えば、阪神・淡路大震災の後、大規模店舗との競合激化が被災商店街に悪影響を与えていましたが、これらの大規模店舗は、臨海部の被災した倉庫や工場等の跡地に多く進出していることが分かりました。都心部の商店街の復興のためには、そこから離れた産業施設の再建支援や跡地のマネジメントまでも考慮する必要があります。また、その他にも自治体の過去の災害対応の教訓をまとめ、今後の災害に活かす研究などに取り組んでいます。

人と防災未来センターの研究環境の魅力は、実践的研究を標榜し同世代の防災研究者や行政関係者との関係が強く、大学よりも実社会に近い点であり、民間出身の自分の能力が役立つ場所があるのではないかと考えています。限られた任期の中ですが頑張っていきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



阪神・淡路大震災後の大規模店舗の進出状況

◆ひと未来館企画展 「絵本ひろば2007」

まちの音、まつりの音、楽器の音、自然の音などを感じることができる、約120点の絵本を展示した「絵本ひろば2007～音の楽しさ、感じる絵本～」を10月30日(火)から12月24日(月・祝)まで開催しました。

絵本のよみきかせや、飛び出す絵本の仕掛けを使った「ミニ絵本づくり」の体験、絵本でおしゃべりするワークシヨップは、大人から子どもまで、たくさんの方々に楽しんでいただきました。



◆ 展示会

人と防災未来センターでは、より多くの方に当センターの活動内容を知っていただくため、イベント等に出展し、普及啓発活動に努めています。

「ふれあいフェスティバル」

10月27・28日の2日にわたり、播磨科学公園都市において開催された「ふれあいフェスティバル2007」に当センターも出展しました。延べ8万5千人の来場者でにぎわった会場で、センターの施設概要をパネルで紹介し、非常持ち出し品リストの配布も行いました。

また「震災記録写真展」と銘打ち、震災直後の様子の写真を展示し、幅広い年齢層の方に見ていただきました。



「緑十字展2007」

神戸国際展示場において、中央労働災害防止協会主催の「緑十字展2007～働く人の安心づくりフェア～」が11月7～9日の3日間、開催されました。特別展示として震災対策に関する情報等を紹介する「防災展」のコーナーにて、センターの施設概要をパネルで紹介するとともに、非常持ち出し品の基本品目31点を展示しました。

来場者の方々は、サバイバルブランケットや簡易トイレなどを手にとってご覧になっていました。

防災 Q & A

Q

土石流とがけ崩れ、地すべりは、何がどう違うのですか？

A

一般に「土砂災害」と呼ばれているものに、「地すべり」、「がけ崩れ」、「土石流」の3つがあります。

「地すべり」(Landslide)は、地面全体が形を保ったまま一体となってすべっていく大規模な災害で、がけ崩れに比べると、緩やかな傾斜地がゆっくりと動いていきます。地下水によるすべり面が出来るのが原因であり、地すべりの発生しやすい地質は決まっています。阪神・淡路大震災では、西宮市の仁川地区で大規模な地すべりが発生し、大きな被害を出しました。

「がけ崩れ」(Slope Failure)は、大雨や地震により、山の急斜面やがけが原型をとどめず土砂となって崩れ落ちる現象です。突然発生するため、雨量が多くなった際には、早めの避難が必要です。

「土石流」(Debris Flow)は、集中豪雨や上流でのがけ崩れ等により、大量の土砂と水と一緒に急スピードで川や谷筋を流れ落ちてくるものです。また土砂が少なく、水の割合が大きいものを「鉄砲水」と呼びます。

土砂災害の発生しやすいがけ下の危険な場所に、住宅が建てられている場合も多く、近年では土砂災害ハザードマップを作成する地域も出てきています。他の災害と同様、地域の危険性を把握し、避難の備えをしておくことが求められます。

(研究員 紅谷昇平)

震災資料紹介 vol.2

このコーナーでは、当センター所蔵の震災資料を紹介します。

～JR六甲道駅付近被災写真（神戸市灘区）～

<資料解説>

資料提供者のご両親が、倒壊家屋から救助されたまさにそのときの写真です。

ご両親とも倒壊家屋の下敷きとなっていましたが、ご近所の方が中に入ることができた箇所を見つけ、生存を確認することができたとのことです。中は、どこに足を踏み入れたらいいか分からぬようひどい状態でしたが、多くの方のお力添えで、ご両親は無事に救助されたそうです。助けていただいた方の中には、どなたかが分からない方もおられ、その方にはいまだお礼ができていないと言われていました。



そのため、救助から3か月後、現場近くに感謝の言葉を置かれたそうです。（写真左）



人と防災未来センター 資料室（防災未来館5F）

〈開室時間〉9:30～17:30(7～9月は18:00)

〈閉室日〉月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日

〈TEL〉078-262-5058 〈FAX〉078-262-5062

企画展のご案内

ひと未来館企画展「なつかし？あたらし？手作りおもちゃ」開催中

なつかしい、でも、楽しさは新鮮な「手作りおもちゃ」を展示紹介し、魅力を再発見していただける企画展を3月16日(日)まで開催しています。身近にある素材で、誰でも簡単に作れる、面白いおもちゃが集合しています。また、ペットボトルのふたを使ったコマづくりの工作コーナーや、お手玉作りのワークショップも実施します。お子さまだけではなく、大人の方も、子どもの頃を思い出して一緒に遊びましょう！

防災未来館企画展「世界各地の防災グッズと防災の知恵」開催中

地震だけでなく「世界で発生する様々な自然災害」に目を向け、各地で発生している自然災害と、これに対する一般市民の備えといった観点から、「非常時の持ち出し品（エマージェンシー・キット）」等の防災グッズや、世界各地の「防災・減災への啓発のとりくみやアイディア」についてスポットをあて、5月11日(日)まで展示しています。

世界各地の方へのアンケートリサーチや取り組みの取材、資料協力等で集めた情報に基づき、防災グッズの現物や写真、さまざまなグラフィックパネルを用いて紹介しています。

「友の会」会員募集中

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、積極的に利用して防災対策の大切さといのちの尊さを学習しようとする人々の親睦を深め、センターと連携しつつ、社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立されました。

どなたでも入会できますので、たくさんの方の入会をお待ちしています！

会員特典

- センターへ無料で入館できます。
- センターの最新情報が手に入ります。
- 友の会のイベントに参加できます。



年会費

個人会員	3,000円
法人会員	一口 50,000円
郵便振替：00940-2-160211	
口座名：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター友の会	

MIRAI

[人と防災未来センターニュース] Vol.23

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ先

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念
 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
総務課／TEL.(078)262-5060
観覧案内／TEL.(078)262-5050
ホームページアドレス／<http://www.dri.ne.jp/>

●開館時間 9:30～17:30（入館は16:30まで）
ただし、7～9月は9:30～18:00
(入館は17:00まで)
金・土曜日は～19:00(入館は18:00まで)

●休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始の12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク（4月28日～5月5日）期間中は無休

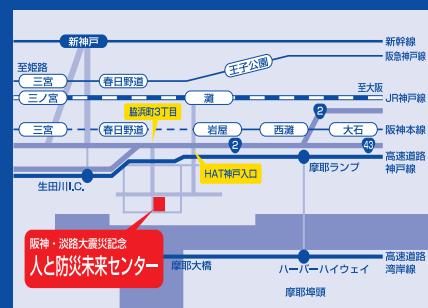
●入館料金（団体は20名以上）

区分	防災未来館		ひと未来館		両館	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県内の小・中学生はココロンカードを提示すれば無料。

障害をお持ちの方及び兵庫県内在住で65歳以上の方は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかるものを提示ください。

交通マップ



■交通 鉄道／阪神「岩屋駅」「春日野道駅」から徒歩約10分。

JR「難波」南口から徒歩約12分。

阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。

バス／JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分。

神戸市営バス

三宮駅前から約1時間間隔で運転。

阪神電鉄バス

三宮駅前から約30分間隔で運転。

車／阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分、阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場（普通車100台駐車可能）このほか近隣にも有料駐車場があります。

■バス待機所

予約制／無料

観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。